

●事務局体制

東京事務所
伊藤多栄子、岩本宗孝、佐谷隆一、ゾリグト・アズザヤ、
能智和美、野村政道、眞栄城好香、吉岡健治、渡辺悠斗
ブノンペン事務所
辰川はる奈、水野泰晴、バン・ラス、マオ・カナリン、
ノウ・チャント、スレン・キムヘン、ヒム・サヴィー

●今後のイベント

2024年 7/27 (土) 第19回 JHPチャリティコンサート
@ 浜離宮朝日ホール
※上記以外のイベントを開催する際は、
ホームページやメルマガでお知らせします。

「第3回SDGsジャパンスカラシップ 岩佐賞」教育の部を受賞しました

この度、JHPの『成人のための識字教育事業』
が「第3回SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞*」
(SDGs岩佐賞)を【教育の部】で受賞しました。

*【SDGs岩佐賞】とは

公益財団法人岩佐教育文化財団による、様々な分野の社会
課題の解決やSDGsの達成へと地道に行動する人々を表彰し、応援する賞です。
第3回となる今回、JHPは総エントリー616件の中、選考を経て
30の団体・個人の受賞の1つとして決定されました。

今回の受賞にあたって、朝日新聞の朝刊紙面と
ウェブ版メディア「朝日新聞SDGs ACTION」に、
識字教育事業の紹介記事が発表されました。
また、受賞記念の権もいただきました。

今年30周年を迎える節目の年に、このように当会の活動を評
価いただき、大変うれしく思います。

また、JHPの活動をこれまで支えてくださっている会員・支援者
の皆さまと一緒に受賞した、この度の賞だと思っております。

改めまして、日頃からのご支援ありがとうございます。ご
この賞を励みに、JHPは今後も活動に邁進してまいります。
引き続き、温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



◀ 識字事業の紹介や受賞記事はこちら！

認定NPO法人 JHP・学校をつくる会



会費支払

当会の活動は皆様からの会費・寄付で成り立っています。
JHPニュースと活動記録集は会員の皆様にお送りしています。
・年会費：一般会員5千円、学生会員3千円、特別会員5万円
・上記それぞれ「正会員」・「賛助会員」が選択いただけます
◆「正会員」：定例総会や臨時総会の出席資格、議決権
を持てます
会費は控除の対象にはなりません
◆「賛助会員」：定例総会や臨時総会に出席できますが、
議決権を持ってません
会費は寄付と同様に税法上所得控除の
対象となります

口座名：特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会
郵便口座：00110-4-356264
銀行口座：みずほ銀行赤坂支店 普通 1844676

※会費期限切れの方は更新手続きをお願いいたします。

期限前の支払いも可能です。

※郵便口座からの自動引落も可能です。ご希望の方はご連絡下さい。

※銀行振込ご利用の際は、連絡先確認のためご連絡をお願いします。

※転居された際は新任所をお知らせ下さい。

JHPのホームページから、
クレジットカードで会費・寄付金の
お支払いができます！



～モノで寄付～

「買取大吉」からご支援が可能に

この度JHPは、従来から皆様にご利用頂いている「お宝エイド」
に加え、「買取大吉モノ/募金*」の寄付団体となりました。

*買取大吉様による「モノ」を現金化して寄付する寄付プログラムです。



寄付先としてJHPを選んで出張買取
サービスにお申込みいただくと、
査定金額＋買取大吉から10%上乗せ
の金額が、JHPへ寄付されます。

査定員がご自宅へ派遣される出張買取サービスのため、小さ
なお子様がいるご家庭やご年配の方など外出に抵抗がある方
にも気軽にご利用いただけます。

また、物品を宅配で送る必要がないので、サイズの大きなもの
や割れ物のように梱包が難しいものにもご利用いただけます。

「買取大吉モノ/募金」を通じての
温かいご支援をお待ちしております。
詳細はこちら▶



お申込みの
詳細はこちら▶

「JHPニュース Vol.83」(2023年12月号)

発行元：認定NPO法人 JHP・学校をつくる会

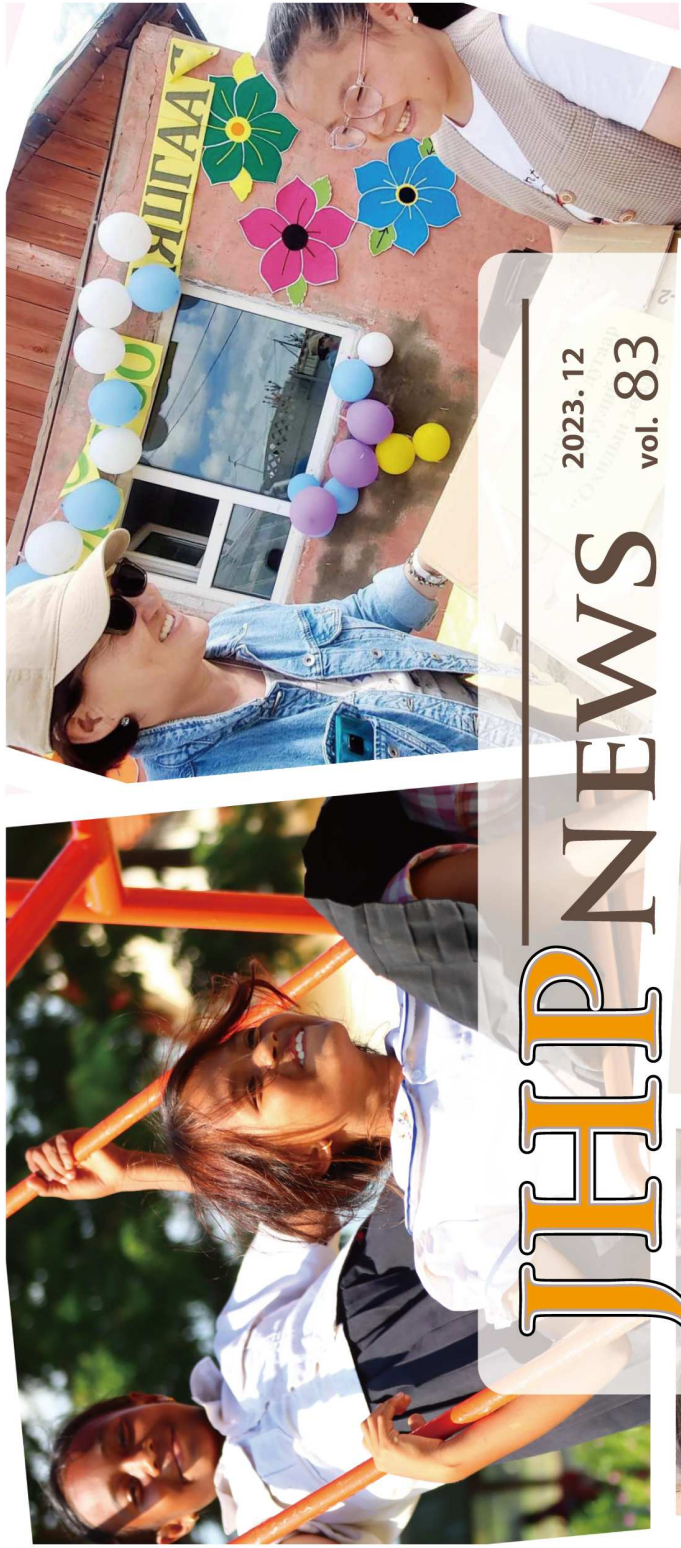
発行人：小山内美江子

編集人：眞栄城好香

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2

鈴木ビル2階

TEL: 03-6435-0812



JHP NEWS

2023.12

vol. 83



30周年記念祝賀会

JHP・学校をつくる会

特集

Thank you

JHP 30th Anniversary

会員・支援者の皆様にお越しいただき盛大に開催した30周年記念祝賀会の様子と
メモリアルイヤーを迎えた、JHPの現地での最新の活動内容をお届けします！

1993年9月に創立した当会は、多くの支援者の皆さまのご協力とご支援のおかげさまで、今年30周年を迎えました。改めて、これまでの皆さまの貴重なご支援とご協力に心よりお礼申し上げます。

今回は、30周年を記念し開催した「30周年記念祝賀会」の様子を中心にお届けします。



30周年記念ロゴに込められた意味

沢山の方々に支えられ、積み重ねてきた30年間の活動が実を結び、現地で大きな花を咲かせている様をイメージして、人をモチーフにした花びら1枚1枚が大きく鮮やかな花を咲かせているデザインになっています。

記念ロゴの制作には当会会員のデザイナーの福井亜美様にご協力いただきました。

JHP30年間の歩みの実績

学校建設数

 **20州374棟1655教室**
 **19棟80教室**

衛生施設数

トイレ 293棟1198室
手洗場 152基

育成した芸術教員の数

 **1976名**

識字者になった生徒数

 **373名**

芸術教育を行った児童数

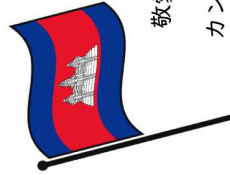
 **960名**

ボランティア派遣数

 **1200名以上**

寄贈した鍵盤ハーモニカの数

 **4600台以上**



カンボジア国王の最高顧問 チア・ソパラ氏からの祝辞

敬愛するJHP・学校をつくる会の小山内代表と職員の皆様、支援者の皆様へ心よりお祝いと感謝の意を表します。

カンボジアでは1975年から1979年までのポル・ポト政権下の時代、教育は禁止され完全に破壊されました。

そのため、学校の校舎、教員、教材が著しく不足しています。

私が何年も前に、小山内代表をトゥボンクモム州クローイチュマ郡ロカクノール地域へご案内した際の出来事に關してお伝えさせていただきます。教育施設がなく、幼く聡明な子ども達が屋外の木の下で勉強する、まさに胸が張り裂けるような光景を目の当たりにし、小山内代表は生徒達のために校舎を寄付することを躊躇することなく決定され、JHPはこれまで370棟以上の校舎、教育に関連する校舎をカンボジア全土で建設してきました。

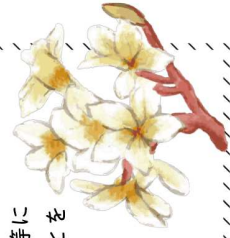
その中の1つであるチアチャック中学校には、1棟5室の校舎を建設していただきました。この中学校は私の生まれ故郷の村にあり、私の亡き父の名が付けられた学校です。

ご支援頂いた全ての学校はカンボジアの教育と人材育成に多大な貢献をしてくれました。

JHPが寄贈した校舎で教育を受けた当時の幼い子ども達は、今では親、医師、教師、エンジニア、投資家等に

なりカンボジアの発展と繁栄の礎になっています。私はJHPのこれまでの功績が常に彼らの記憶に残ることを強く確信しています。

JHP・学校をつくる会の創立30周年を改めてお祝い申し上げますと共に、皆様のご健康、今後のご成功とご発展をお祈り申し上げます。



皆さまの温かいご支援・ご協力が現地の教育を支え、大きな花を咲かせています。今後とも、熱いご応援の程、よろしく願っています。

JHP・学校をつくる会 30周年記念祝賀会

10/8
SUN



30周年記念祝賀会を行いました！

2023年10月8日(日)「ホテルメルパルク横浜」(横浜市)にて、全国各地から約130名の支援者の皆さまが集い、30周年記念祝賀会を開催しました。

当日は小山内代表も、ご子息の利重さんと共に会場を訪れ、公式には5年振りに多くの支援者の皆様とお顔を合わせることができました。

開会に先立ち、代表から一言ご挨拶があったのち、利重さんより代表の近況をお話いただく場面もありました。



開会後には、JHPスペシャルサポーターとして、長くご支援・ご協力を頂いている藤原紀香さんからご挨拶を頂き、

今年6月にカンボジアへ訪問された際に、15年前に寄贈下さった学校の当時学生だったソピアックさんと、現在母校で先生となった姿で再会することかてきた際の感動を伝えて下さりながら、「学校や文具を寄贈することで、すぐに世界が変わる訳ではないけれど、積み重ねてきた活動が確実に子ども達の未来の可能性を広げることに繋がっていると感じます。小さなことでも、できることから始めることが大切」と激励の熱いメッセージをいただきました。



続いて、「子ども達へ本物の音楽の楽しさを届けたい」という想いで、当会のチャリティーコンサートに2年連続でご出演頂いている、ヴァイオリニスト 高木凛々子さんより、「愛の喜び(クライスラー)」「チャルダッシュ(モンテイ)」の心に響く素晴らしいヴァイオリン演奏を披露いただきました。

また、乾杯の音頭は、JHP設立時から奥様と子ども、学生ボランティアとして関わり、現国会議員としてご活躍中の森山浩行さん、百恵さんご夫妻が明るく高らかに発声下さりました。会の終盤には、2023年夏の影響で4年振りに開催した「カンボジア体験ボランティア」に参加した有志メンバーによる活動報告として、代表の学生に実際に現地を訪問して感じたことを話して頂きました。自らの言葉で生き生きと話す姿が印象的で、同じく祝賀会に集まった活動隊の先輩方との新たな出会いと交流の場にもなりました。



懐かしい方々との再会の場になったことはもちろん、同じテーブルで初めましての挨拶から始まった方々も、自然と会話が広がるような温かい雰囲気の中で、終始、会が進み、多くの皆様からの応援と、ご支援・ご協力あって迎えた30周年であることを実感する場となりました。また、祝賀会にあたっても多数のご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。ご寄付は今後の教育支援事業等に活用させていただきます。



多くの支援者の皆様が現地を訪問されています



贈呈式に集まった生徒の家族や村の人達

皆様の温かいご支援により、過去30年間で合計374棟の学校をカンボジアにて建設することができました。心より感謝申し上げます。

2023年後半、コロナ禍でやむを得ず学校訪問を延期されていた支援者の皆様が続々と訪問されました。個人と団体合わせ、合計6組の支援者の方々が、各支援学校にて校舎の贈呈式への列席、文具や遊具などの寄贈、校舎や遊具の塗装ボランティア活動、更に子ども達との交流をされました。

また、大学生と社会人を対象とした、カンボジア体験ボランティア活動も4年ぶりに再開し、現地の実体験の機会が戻って来ました。



タナウ小学校 ご寄贈頂いた文具と一緒に

カンボジアにおける教育の価値と経済成長

突然ですが、皆さんは屋外で座学の授業を受けたことがあるでしょうか。少し想像してみてください。もし高温多湿、虫、犬、猫、鳥、牛、騒音、雨風の中で授業を受けるとしたら、勉強に集中できるでしょうか。

カンボジア国内、特に農村部には、倒壊の恐れがある校舎や教室不足の学校が数多く存在します。生徒自身のやる気や家庭環境、優秀な先生の実存、図書や情報通信技術の有無等の環境と同様に、こうした学習環境の改善は、生徒の学習習慣に密接に関係しています。

ユネスコと世界銀行によると、バングラデシュなど数か国事例では、「学校インフラを整備すること」が、生徒の出席率・就学率向上や教員のモチベーション向上効果はもちろん、「授業欠席率の減少」に大きな効果があったそうです。

カンボジアでも、トイレや手洗い場等の衛生施設や、生徒数に合った学校校舎・教室が充足することで、学校に通う生徒たちの学習への関心を高め、成績向上に繋がるだけでなく、遠隔地に住む児童へ平等な学習機会を増やすことができます。

「教育」は労働力、資本、技術と共に、国の発展には欠かせない材料であり、他の分野を円滑に進めるために最も重要な分野です。

以下、カンボジアの経済成長を示すデータ（世界銀行）をご覧ください。

1997年～2021年：人間開発指数1.7倍
1993年～2022年：1人当たりの国内総生産7.7倍
1995年～2022年：国民総所得8倍

このカンボジアの大きな経済成長の背景には、人的資本の増加、つまり『教育』に負うところが大きいのではないのでしょうか。これまでの30年間で、ご支援頂いた校舎で教育を受け、学んだ卒業生（最初の卒業生は現在42歳前後）が、人的資源の発展と経済成長に貢献している、言い換えれば、皆様のご支援がカンボジアの国の発展に大きく貢献していると言えると思います。

カンボジアの未来を担う子ども達のため、引き続き、皆様からの温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



悪天候時は授業が困難な教室



第5期 識字クラス 成人のための識字クラスを開講しました

2018年から開始した成人のための識字教育事業は、2023年8月に開講式を実施し、第5期目を迎えました。就学時に内戦や貧困により学校に通えず、文字の読み、書き、計算ができない15歳以上の成人を対象に夜間識字クラスを開講しています。

第5期識字クラス



- 識字クラス開講期間：2023年8月1日～2024年3月31日（8か月間）
- 開講時間：PM 6時～8時
- 開講場所：コンボンチャム州バティエ郡サンダエックコミュニティ内にある4村<スワイブレイ村、バンディエチャス村、スラーコッコー村①、スラーコッコー村②>
- 受講生数：100名（男性26名/女性74名） 各村25名
- 現地カウンセラー：6名（スーパーバイザー1名、アシスタント1名、識字教員4名）

クラス開講前には質を保った識字教育を実施するため、識字教員を対象に合計3日間の教員養成コースを実施しました。開講式には、生徒、教員、コミュニティ長、村長、郡政府が参加し、これから始まる8か月間の識字クラスに参加する生徒たちへの激励の挨拶や日本の皆様の支援に対して感謝の言葉が述べられました。



スーパーバイザー
ニヤム・ニエイト氏

昨年もJHPと共に識字教育を開講し、98名の生徒が識字者となりました。クラス卒業後に読み、書き、計算ができるようになったことで彼らの自信に繋がりを、以前より積極的に人とコミュニケーションと取るようになりました。また、得た知識を日々の生活にも取り入れるようになりました。ある受講生は、識字クラスを受講する前は自分なりの方法で化学肥料を使っていたが、今は袋に記載された使用方法を読み、それに従い稲作を行うようになりました。それにより収穫量を増やすことに繋がりました。他の生徒達もいろいろな自分の力でできるようになり、皆さんとても幸せそうです。村で知識を持つ人が増加すると、村の発展、ゆくゆくはカンボジアの発展に繋がります。今期の受講生の皆様も、8か月間頑張って勉強を続け、この識字クラスが皆さんの生活が豊かになる一助になればと思います。

Q1. 識字クラスに参加しようと思ったきっかけは何ですか？

A. 家庭がとても貧しく就学時に家畜の世話をしなければならなかったため、学校には通ったことはなく、ダルマ（仏陀の教えが記述されている経典）を読めません。計算もできなかったの、識字クラスに参加しました。

Q2. 受講してから1か月が経過しましたが、クラスはどうでしょう？

A. 母音、子音の使い方を少しずつ理解しました。また正しい発音の仕方でも学びました。クラスは楽しいです。最後まで続けたいです。私はこれまで一度も欠席したことはありません。



スワイブレイ村の受講生
ナン・ブーンさん(52歳)

Q3. 卒業後の展望を聞かせてください

A. 小売業を始めて収入を向上させたいです。

本事業は、日本労働組合総連合会様とウェスレー財団様、個人の皆様からのご支援により実施しています。引き続き、皆様の温かいご支援、ご声援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



JICA草の根技術協力事業

『カンボジアの子どもたちに音楽と美術の楽しさを』

カンボジア全土での芸術教育普及に向けて本格始動！

『カンボジアのすべての子どもたちが、学校で質の高い芸術教育を受けることができる』ことをオーバーゴールとし、1995年より取り組んできた芸術教育支援事業は、今年3月にJICAの草の根技術協力事業（パートナー型）として採択が決まり、2023年10月現在、カンボジア政府、JICA、JHPの3者間で次期事業に関する合意形成及び事業開始の準備を行っています。

次期芸術教育支援事業では、下記の成果を3年間で達成することを目指します。

▶ 新たなナショナルトレーナー（芸術教科を指導できる教員）の育成

▶ 第1版の生徒用教科書、指導書、シラバスの改訂

▶ 教員養成大学（TEC）のシラバスの改訂及び指導法に関する教材開発

今後の芸術教育支援事業の展開に関しまして、弊会のホームページやFacebook等のSNSでも公開いたしますので、今後とも変わらぬご声援の程、よろしく願っています。



Special Interview



＼青年海外協力隊員に聞いた／ 鍵盤ハーモニカを使ったカンボジア音楽教育指導

これまで日本の皆様にご支援いただいた鍵盤ハーモニカの台数は4000台以上のほり、現地の教員、生徒、青年海外協力隊の皆さんにより活用されています。皆さまのご支援に心より感謝いたします。

2022年より青年海外協力隊の小学校教育隊員として、クラチエ州クロコロー小学校で活動している北風亜矢さんに、鍵盤ハーモニカの使用状況に関してインタビューを実施しました。

Q 鍵盤ハーモニカは月に何回、授業で使用していますか？

A 月16回（週4回）です。

Q 鍵盤ハーモニカを指導する中でどういった時にやりがいを感じますか？

A 子どもたちが楽器を弾けるようになった時の嬉しそうな顔や、音色を聞かせにきてくれる時の笑顔を見た時です。また、自分たちの好きな曲を弾きたいから音を教えて欲しいと言いに来てくれるとすごく嬉しいです。

Q 鍵盤ハーモニカを指導する中で困難だと感じる点はありますか？

A カンボジアの音楽は拍に合わせて演奏したり、楽譜にすることが難しい音の長さであることがあります。そのため、私自身が曲を掴めず指導するのが難しいです。私が拍を掴めないままだと、全員の演奏が合わせられずバラバラになってしまいます。まずは階名唱を何度も子どもと行い、拍にうまくハマらなくても全員が揃うようになってから鍵盤ハーモニカの練習に移るように工夫しています。

Q 鍵盤ハーモニカの指導を通して、子ども達にどういった能力を身に付けて欲しいですか？

A できないことでも何度も練習することで、できるようになるということや、友だちと合わせて演奏することの楽しさを感じて欲しいと思います。



音楽指導の様子



演奏指揮をする北風さん

01

JHPで働き始める前（または、芸術教育支援事業に取り組む前）に芸術教育について持っていたイメージを教えてください。

『JHPで働き始める前は、芸術教育は、音楽家や芸術家、ダンサーや歌手になるような人が、大学で専攻するものであると思っていました。』

02

芸術教育事業を経て、持っているイメージは変わりましたか？変わった場合は、どんなところが変わりましたか？

『初等科芸術教育教育支援事業に携わるようになって以降、今まで思っていた芸術教育に対する考え方が全く変わりました。芸術教育は大学で教わるだけのものではなく、小学校段階から教え学ぶものです。それぞれの学年によって様々な異なる面白く授業があります。』

そして、教員が芸術教育を教えることにおいて、最も大切なことは、教材となる材料の準備を十分にすることだと実感することができました。（もし可能であれば、授業に基づいた様々な種類の材料があるとよいです。）

主に図工分野の授業づくりを担当しました

Special Interview Vol.4



図工分野 担当
Sreng Kimheng
スレン・キムヘン

◆勤務歴：5年
◆初等科芸術教育支援事業にて主に図工分野を担当。

／初等科芸術教育支援事業スタッフ
インタビュー第4弾をお届けします！／

04

芸術教育支援事業の実施中、

良かったこと、大変だったこと、やりがいを感じたことは何ですか？

◆良かったこと：

『このプロジェクトを通じて、関係機関と多くの協力関係を築くことができ、各機関がワーキンググループメンバーとして共にプロジェクトに参加してくれたことでプロジェクトが円滑に進みました。』

◆大変だったこと：

『コロナの深刻な感染爆発が起き、プロジェクトの進行に多くの影響を与えました。JHPのスタッフも、ワーキンググループのメンバーも、それぞれ自宅で仕事をしましたし、公立小学校での先行授業も実施できませんでした。教科書、指導書を作成するためのワーキンググループメンバーとの会議も難しくなりました。』

◆やりがいを感じたこと：

『プロジェクトの過程で、先行授業で子どもたちに授業をしたことに、やりがいを感じました。また、他のJHPスタッフと共に、日本の専門家、ワーキンググループメンバーと研修会の準備したこと、タケオ州で公立小学校の先生に向けた研修会を行ったことも、非常にやりがいを感じました。』

05

読者へ一言メッセージ

『日本の方々には、カンボジアの発展のために様々な分野において支援いただき、感謝しています。全ての日本の皆様が幸せでありますように。ありがとうございます。』





CAP (CCH Art Project) は芸術活動を通して子ども達の創造力と豊かな情操を育むことを目的とし、2015年よりスタートした活動です。
毎週金曜日の午前と午後、CCH小学校の全学年の児童を対象に実施しています。
子ども達は様々な芸術活動を通して自身の思いを言葉で表現することや、他の子ども達の作品を鑑賞して
多種多様な表現方法があることを学びます。
今回は特に子ども達に人気があった活動の1つをピックアップしてご紹介します。

大きな画用紙にみんなで絵を描こう！

子ども達を3つのグループに分け、各グループは1つのテーマを決めた後、絵の具で大きな画用紙にテーマに従い絵を描きます。
時間内に完成させるためにはメンバー同士の協力が必要です。子ども達は自分の意見と他者の意見を交えつつ、各グループ時間内に1つ
の作品を作り上げました。グループワークを通して子ども達は他者と協力して課題に取り組み力を養います。



ー音楽のアクティビティー

CAPでは2023年1月より月に2回、プノンペン教員養成大学に所属している音楽の先生が、子ども達に歌と鍵盤ハーモニカの指導を
行っています。子ども達は音楽の授業を通して音符を理解し、全員で音や歌声を合わせることを楽しさを学びます。



音楽の先生 (サンダリン先生) へのインタビュー

01 いつ頃から音楽に興味を持ちましたか？

私は小学校高学年の時に事故に遭いました。その時、医者から脳に
問題があると言われ、それを聞いた父が「何かこの子に楽しいことを
やらせてあげよう」と考え、私を音楽学校に入れました。
そこで、オーケストラや歌唱を学び、音楽が好きになりました。

02 CCHの子どもたちのように、改善した方がよいところを教えてください。

CCHの子どもたちは、音楽にとっても興味を持っているため、指導がしやすいです。
楽しそうに活動し、私ともよい関係を築いています。
改善点は、個別指導をしている時に騒がしくなってしまうことです。ただ、この点は大人も同じですね。

03 これからCCHの子どもたちにとどのようなことを教えてみたいですか？

様々な種類の音楽や歌を教えてあげたいです。子どもたちの笑顔が見られると、とても嬉しいです。



カンボジア 体験ボランティア 2023

新型コロナウイルスにより、2020年度から開催見送りとなっていたカンボジア体験ボランティア。
4年振りの開催となった今年は、2023年8月20日～28日の約8日間に向け、カンボジア王国プノンペン市・ブレイベン州にて、
大学生10名・社会人6名の総勢16名がカンボジアでのボランティア活動を行いました。

今年は、JHPを通じて建設支援された小学校の校庭へのブランコ建設や、子ども達との交流などに加え、初の試みとして、美術大学に
通う現役学生企画による、身の回りの段ボールや緩衝材等の廃材を用いたアート創作活動や、大学生メンバー中心に準備行った衛生
ワークシヨップ等、参加者が主体となって企画実施することを大切に活動を行いました。

＼皆で力を合わせ小学校の校庭へスチールブランコを建てました！／



約8日間のカンボジア体験ボランティアを通じて、メンバーからは、普段経験することので
きない沢山の貴重な人生の学びを得ることができたとの声が多数ありました。
活動の集大成として、10月中旬に開催した活動報告会では、この8日間の体験談を自分の
言葉で生き生きと話すメンバーたちの姿が印象的でした。

また、参加したメンバーの多くが、出発前や帰国後に「チャリティーコンサート」「グローバ
ルフェスタ」「JHP30周年記念祝賀会」等、数々のJHPの活動にボランティア参加しています。
今後この出会いと繋がりを大切にしながら、今回の体験ボランティアでの実体験を
多くの人に伝え、ぜひそれぞれのフィールドで活かしてもらいたいと思います。



活動報告会での集合写真



ネパールの最新活動報告

ネパール学校建設

ネパールでは現在2棟の学校を建設しています。
A校は10月時点で建設作業完了、B校は10月末に着工しました。今回はA校の様子をご報告させていただきます。

7月

9月

10月



A校建設は2階の支柱部分まで進んでいます。
2階屋根のコンクリート打ち込み工事を
モンスーンの始まる前に完了できるか
心配しましたが間に合わせることができました。

建設は最終段階まで進んでおり、
外壁に校舎名を取り付ける予定です。

建設作業は完了し、
塗装、電気工事、備品取り付けの
作業が残っています。

今後も引き続き、ネパール事業への皆さまの温かい応援の程、よろしく申し上げます。



JHPチャリティーカレンダー『Smile Moment』2024

好評販売中！

毎年好評いただいているJHPチャリティーカレンダー『Smile Moment』の2024年版が完成しました。
世界共通言語とも言える“笑顔”。その表情は、個性さまざまですが、等しく温かい幸せな気持ちや
安心感を与えてくれる不思議なパワーがあると思っています。

今年もカンボジア・ネパールの子どもたちの溢れる笑顔が詰まったカレンダーとなりました。

このカレンダーを通して、世界との繋がりを感じ、手に取ってくださる皆さまに、
明るい笑顔の輪が広がっていきますように！

ご自宅用・仕事用はもちろん、
贈り物にもピッタリです！



ご購入情報は
こちらから！



カレンダーで国際貢献
壁掛け：500円
卓上：800円
送料
壁掛け 1-5冊：90円 / 6-10冊：180円
卓上 1-3冊：90円 / 4-6冊：180円



チャリティーカレンダーの収益は、カンボジア・ネパールの子どもたちの教育支援のため、JHPの活動に役立てられます。

モンゴルへ制服寄贈を行いました

JHPでは、㈱共同印刷様より寄贈いただいた未使用の制服304着を、当会に在籍するモンゴル国籍の職員からのニーズ情報提供により、モンゴルの必要とされる学校・団体へ贈る活動を行いました。

9月にモンゴル現地の学校や団体へ直接訪問し、制服を贈呈した様子をお届けします。



モンゴルについて

今回寄贈先となったモンゴルは、寒暖差が大きい国と言われ、夏期は40度、冬季は-40度にもなります。
モンゴルは「大草原」や「遊牧生活」のイメージが強いですが、近年は気候変動やモンゴル特有の干害、冷害により全財産・家畜を失い、生計を立てられなくなった遊牧民たちが職を求めて、首都ウランバートル市に大量に流入しており、人口の約半分が首都に集中しています。

さらに、そうした人達の約半分がインフラ等が整備されていない「ゲル」*地区』で生活をしており、冬は暖房が無く、あらゆるものを燃やして暖を取るため、大気汚染物質が発生し、生活環境の悪化が問題となっています。

また、学校の数も少ないため、一つの学校に大人数の子どもが通っており、二部制での授業実施など、教育環境もよくありません。

今回寄贈いただいた制服は、そのような過酷な環境下で暮らすゲル地区の方々々に寄贈し、活用していただくことになりました。

*ゲル：季節ごとに移動する遊牧民の人々が伝統的に住む、組み立て式住居

寄贈された制服は、子ども達の発表会の衣装として使用されています



寄贈されたカーディガンを着て写真撮影

寄贈頂いたカーディガンは、ウランバートル市内の公立学校に務めるスタッフ57名の方に提供しました(写真右)。

ウランバートル市の学校では、急速な人口増加に伴い、教育施設の整備が追いつかず、二部制・三部制といった授業体制を取らざるを得ない事態が生じています。1つの教室を2〜3つのクラスが交代し使用しているため、生徒が教室の掃除をする時間はありません。

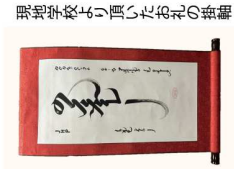
そのため、学校スタッフが教室、トイレなどの清掃を行っています。彼らは最低賃金で、子ども達の衛生面を守って下さっているの、1日でもおしゃやれをして気分転換になればという思いで、提供しました。カーディガンを受け取ったスタッフの方々は、「同じ服を着ると1つのチームとして、よりまとまりますね、日本人の皆様の広い心に感謝しています」と仰っていました。

また、同じく寄贈頂いた、ベスト・スカート・キュロットは、ウランバートル市のスラム地域に住む障がいを持つ子どもや、家で弟妹の面倒をみる子ども達に通う「デリーキャンプ」を運営する『トルゴイト地域開発センター』に提供しました(写真左)。

寄贈された制服は、子ども達の発表会の衣装として使用されます。贈呈訪問した際には、子ども達が発表会で披露するダンスの一部を披露してくれる場面もありました。様々な課題を抱える家庭から集まっている子ども達ですが、それでも明るく、歌、ダンス、勉強などを一生懸命に取り組み姿に感動しました。

この度の寄贈にあたり、遠いモンゴルへ制服を送る輸送費用に頭を抱えておりましたが、40名の方から貴重なご寄付をいただき、無事に現地へと届けることができました。ご寄付をいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

今後も「できることから」をモットーに、支援ニーズに合わせた取り組みをしていきたいと思っています。
皆様の温かいご支援とご協力の程、よろしくお願いいたします。



現地字なにも頂いたお礼の御紙